

2020年8月30日（日）メッセージアウトライン「古い私よ、さようなら」

聖書箇所：ローマ人への手紙6：1～14

タイトル：「古い私よ、さようなら」

テーマ：「イエス・キリストを信じる信仰によって救われた」とは、何を意味しているのか。

私たちは、「①主イエスは私たちの罪のために死に渡され ②主イエスは私たちが義と認められるためによみがえられた。」ことを信じている。言い換えれば、主イエスの死は、私たちが義と認められるためであり、復活は父なる神がそれを承認してくださったということ。この大きな神の愛と恵みを受けた者が、罪の中にとどまり続けることなどありえないとパウロは、今日の聖書箇所の中で断言する。

キリスト・イエスにつくバプテスマの意味をパウロは解説しつつ、義とされた者の生き方を語っている。それは古い自分に対する永遠の訣別を意味している。義認から聖化へ——これなくして救われたと言えるのか。キリスト者としての生き方の重要なカギを今日の聖書箇所から見い出していこう！

## 1. 恵みに対する勘違い

①「恵みが増し加わるために、私たちは罪にとどまるべきでしょうか。」（6：1）

\* 5：20に「罪の増し加わるところに、恵みも満ちあふれました。」とある。

義認は信仰と恵みによって与えられるものだが、恵みを自分勝手な生き方をしても構わないという口実にする者にパウロは語りかける。

②「罪に対して死んだ私たちが、どうしてなおも罪のうちに生きていられるでしょうか。」（6：2）と、パウロは救われた者の新しい生き方について語り始める。

\* 罪に対して死ぬとは？——罪を犯さないでいられるようになったということ。いつまでも古い人（罪の性質）の言いなりになってはダメということ。

## 2. 「キリスト・イエスにつくバプテスマ」（6：3）の意味するもの

①「バプテスマ」とは何ですか（ギリシア語で「バプティゾー」）

\* 水などに浸す、漬ける、沈める（全身を水没させる行為）

\* イエス様以前のユダヤ教にもあった習慣

\* ペンテコステ以降、福音信仰の表明（キリストの死と復活を受け入れることの表現）としてバプテスマを受けた

\* どっぷり漬けられるのと同じ受動的体験（聖霊のバプテスマ——聖霊が人を捕えて全人格を支配する様子の表現、聖霊漬けにされたということ——これがイエスにつくバプテスマの意味すること）

\* 一体化の表現 ～のものとなる。

ここでパウロが教えようとしている「バプテスマ」は一体化、一つとなるという意味

## ②キリストの死にあずかるバプテスマ（3，4，6，7節）

\*イエスを信じる者は、キリストの死に与るバプテスマを受けた。すなわち、イエス様を信じる私たちはイエス様と共に死んで葬られたということ。

\*罪に対して死んだ——イエス様を信じる前の私たちは、サタンの支配下にあつて罪を犯さざるを得ない存在だった。その罪に対して私たちは死んだ。罪は私たちに対する影響力を失った。罪に対して死んだ者はいかなる罪の誘惑が来ても、心動かされることがない。死んでいるのに反応するならその人は死んでいないのだ。もちろん、罪の誘惑を感じることはあるが、罪の性質はもはや罪を犯せと私たちを無理強いすることはできない。

\*イエス様と共に死んだ者はもはや罪から解放されている。（罪の奴隷からの解放）

## ③キリストの復活にあずかるバプテスマ

\*「キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。」4節

\*「私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。」5節

\*イエス様は死人の中から復活し、もう二度と死ぬことがない。死はもはやイエス様を支配する力を失った。（9節）

\*イエス様は罪の支配にとどめを刺すために、一度だけ死なれた。今は神との交わりの中に永遠に生きておられる。イエス様の死と結び合わされた私たちは罪の支配から解放され、イエス様と同じように永遠の神との交わりの中に生きる者とされた、このことを忘れてはいけない。（10、11節）

## ④キリスト・イエスにつくバプテスマの結果

\*長生きだろうが短命だろうが私たちの肉体は必ず死ぬ。その体を罪に支配させて体の欲望に従って生きてはダメ。体のどの部分も罪を犯すための道具としてはいけない。すでに復活のいのちを生きている者として、すべてを神にささげ、神様の思いに叶って用いていただきなさい。（12、13節）

\*罪は二度とあなたを支配しない。私たちは神の恵みの中にある。（14節）

\*「私は罪に対して死んだ者」と深い自覚を持って歩んでいるか？

## 3. 古い私よ、さようなら

\*キリストにつくバプテスマを受けたことを信仰をもって受け止めよう。

## 4. 結論

①救われていることの醍醐味を経験しよう！

②「古い私よ、さようなら。新しいいのちに生きる私よ、こんにちは！」